

事業名称	「認知症高齢者にやさしいまちづくり～認知症になっても集える居場所、魅力ある認知症サロンにむけて 推進事業」
団体名・代表者	青山1000人会 岸岡孝昭
協働の相手方	地域包括支援課

目的	姫路市内には、237カ所の認知症サロンがあります。サロン活動の定義がなく、団体組織、活動プログラム、運営費、専門家との連携、活動時間、スタッフスキルなど各サロンが手探り状態で活動している。認知症サロンを対象にアンケート調査を実施し、現状と課題を把握し、関係機関が共有認識し、課題解決に向けて提案する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内の地域包括支援センターのヒアリングをする。 認知症サロン運営者を対象にアンケート調査、分析し課題を把握、課題解決への政策提言 「認知症カフェってどんなところ？」フォーラムを開催。認知症カフェ活動とアンケート調査から見える課題を共有する機会を提供する。
事業経過	<ul style="list-style-type: none"> 市内の地域包括支援センターで認知症サロンの運営に対する意識調査。 認知症サロン運営者代表者を対象にアンケート調査。 認知症カフェフォーラム開催「認知症カフェってどんなところ？」 姫路市認知症カフェアンケート報告書（現状把握・課題・課題解決政策提言・・・）
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サロン運営上の課題が把握できた。 認知症サロン運営者が活動のふりかえりの機会になった。 認知症サロン運営上の様々な課題解決に向けての機運がある。 認知症サロン運営についてフォーラム参加者が認識できる機会を提供できた。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ運営上の課題を次年度は解決に向けて活動する。 認知症カフェが認知症の当事者や家族、関係のある方の居場所になる。 市民がボランティア活動への参加機会になればよい。 認知症カフェが充実した活動運営になれば、「日本一高齢者にやさしい街・姫路市」宣言

【実施団体の事業総括・感想等】

<p>・市内の「認知症サロン」の現状が把握できた。運営代表者が活動をふりかえり、認知症カフェが関係者にとって居心地のいい居場所になれば高齢者にやさしいまちづくりになると思います。青山1000人会が運営する「オレンジカフェあおやま1号店」「オレンジカフェあおやま2号店」が市民に受け入れられるモデルになるような「認知症カフェ」として活動したい。</p>

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>【地域包括支援課】認知症になっても住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるよう、地域住民や認知症サポーター、社会資源等と連携した場づくりは重要であり、「認知症カフェ」の設置・運営を支援することは地域住民の集いの場づくりとなり、地域での高齢者の見守りを支援する活動の推進や、認知症の方や家族を地域から孤立させない福祉に強い地域づくりにつながると考えます。「認知症カフェ」の運営者を対象としたアンケート調査を実施し、分析、課題抽出するとともに、「認知症カフェフォーラム」を開催され、運営者をはじめとした多くの人に情報提供し、カフェについて考える機会となり、当課の業務を振り返る機会にもなりました。認知症になっても集える居場所づくりは、自助・互助をふまえた地域づくりにつながる有効な活動であると考えます。</p>
